

2. 「食のミライ」 参考文献一覧

教養教育センター主催企画の中でご紹介した文献や登壇者からのおすすめ本は、以下のサイトからご覧いただけます。

【ブックログ：立命館大学教養教育センター各種企画のおすすめ本】

<https://booklog.jp/users/ritsumeikan-univ>

■ 新山 陽子 立命館大学食マネジメント学部教授

講演テーマ「私たちの食の近未来 -フードシステムは持続できるか-

- ・ 藤原辰史『孤食と縁食論：孤食と共食のあいだ』 ミシマ社、2020年
- ・ 岩村暢子『残念和食にもワケがある』 中央公論新社、2017年
- ・ ポール・B・トンプソン『食農倫理学の長い旅：＜食べるのどこに倫理はあるのか＞』 勁草書房、2021年
- ・ 上田遥『食育の理論と教授法：善き食べ手の探究』 昭和堂、2021年
- ・ 橋本健二『新・日本の階級社会』 講談社現代新書、2018年
- ・ 高橋克也編著『食料品アクセス問題と食料消費、健康・栄養』 筑波書房、2020年
- ・ 新山陽子編著『フードシステムと日本農業』 放送大学教育振興会、2018年
- ・ 新山陽子編著『フードシステムの構造と調整』（フードシステムの未来へ1） 昭和堂、2020年
- ・ 新山陽子編著『農業経営の存続、食品の安全』（フードシステムの未来へ2） 昭和堂、2020年
- ・ 新山陽子編著『消費者の判断と選択行動』（フードシステムの未来へ3） 昭和堂、2020年

■ 北山 晴一 立教大学名誉教授

講演テーマ「ヴェジタリアンの運動と『食のミライ』」

（ヴェジタリアン・ヴィーガン関連）4冊

- ・ マルタ・ザラスカ『人類はなぜ肉食を止められないのか』 インターシフト、2017年
- ・ ピーター・シンガー『動物の解放』 人文書院、2011年
- ・ エリック・マーカス『もう肉も卵も牛乳もいらない 完全菜食主義ヴィーガニズムのすすめ』 早川書房、2004年
- ・ ドミニク・レステル『肉食の哲学』 左右社、2020年

（人間と動物、植物の関係）4冊

- ・ ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎』（上・下） 草思社文庫、2012年
- ・ リチャード・C・フランシス『家畜化という進化—人間はいかに動物を変えたか』 白揚社、2019年
- ・ 松井章・編『野生から家畜へ』 ドメス出版、2015年
- ・ ステファノ・マンクーゾ、アレッサンドロ・ヴィオラ『植物は〈知性〉をもっている 20の感覚で思

考する生命システム』NHK 出版、2015 年

(遺伝子工学と培養肉、人類のミライ) 2 冊

- ・ダナ・ハラウェイ『猿と女とサイボーグ ―自然の再発明』青土社、2000 年
- ・ユヴァル・ノア・ハラリ『ホモ・デウス』(上・下) 河出書房新社、2019 年

(その他)

- ・北山晴一『衣服は肉体に何を与えたか 現代モードの社会学』朝日選書、2019 年
- ・北山晴一・山口久美子・田代眞一 編『乳房の科学 ―女性のからだところどころの問題に向きあう―』朝倉書店、2017 年
- ・南直人・北山晴一・日比野英子・田畑泰子『身体はだれのものか 比較史でみる装いとケア』昭和堂、2018 年
- ・北山晴一『美食の社会史』朝日選書、1991 年
- ・ペーター・ヴォールレーベン『樹木たちの知られざる生活: 森林管理官が聴いた森の声』早川書房、2018 年
- ・北山晴一『世界の食文化⑩フランス』農文協、2008 年
- ・南直人『世界の食文化⑧ドイツ』農文協、2003 年

■ 南 直人 立命館大学食マネジメント学部教授

モデレーター

(肉食関係) (北山先生との重複を避けるため少し周辺的な文献を)

- ・野林厚志編著『肉食行為の研究』平凡社、2018 年
- ・中澤克昭『肉食の社会史』山川出版社、2018 年
- ・田中康弘『ニッポンの肉食』ちくまプリマー新書、2017 年
- ・中村三郎『肉食が地球を滅ぼす』ふたばらいふ新書、2003 年
- ・ポール・シャピロ『クリーンミートー培養肉が世界を変える』日経 B P、2020 年
- ・内澤句子『世界屠畜紀行』解放出版社、2007 年

(食の倫理関係)

- ・秋津元輝・佐藤洋一郎・竹之内裕文編著『農と食の新しい倫理』昭和堂、2018 年
- ・ロナルド・L・サンドラー『食物倫理入門』ナカニシヤ出版、2019 年

(食文化、食の歴史関係)

- ・河合利光編著『食の世界を生きる』時潮社、2021 年
- ・ビー・ウィルソン『「食べる」が変わる「食べる」を変える』原書房、2020 年

以上